

## 【学位論文審査の要旨】

### 1. 研究目的と方法の明確性

本研究は、一般層を対象とした育児エンパワメント尺度を開発し、信頼性、妥当性を検討することを目的として行われた。

本尺度の開発にあたっては、第1段階として、概念分析、フォーカスグループインタビューを行い、これらのデータをもとに、尺度項目を生成し、尺度原案を作成した。第2段階として、尺度原案を使用し予備調査を実施した。第3段階として、予備調査の結果を踏まえて、尺度項目を精選し妥当とされた41項目からなる尺度を作成し、本調査を行った。収集されたデータをもとに、多角的な視点から分析と評価を行った。これらは、尺度開発のプロセスとしてCOSMINの評価視点を踏まえ実施されており適切である。

### 2. 論文構成

論文構成は、緒言、用語の定義、研究方法、結果、考察、結論から構成されており、的確で、論理的に記述され、整合性、一貫性をもって論旨が展開されていた。

また、文献の引用は、論述に必要な文献が適切に引用されていた。

### 3. 専門的知識と研究分野の理解

申請者は、母性・助産学領域の研究者としての専門的知識を有しており、先行研究を精読し、批判的に吟味し、研究に活用されていた。

また、本学位論文に直接関連する育児期の親に関すること、エンパワメントに関することについて、社会学、福祉学、心理学など周辺領域に関する幅広い分野からも知識を得て理解する態度がみられた。

### 4. オリジナリティ

これまで、子育てとその養育者に関する尺度は散見されているが、一般層における子育て期にある親のエンパワメント尺度、さらに、親自身の視点からの尺度は見当たらず、オリジナリティがあると評価できた。

### 5. 看護学の発展への寄与

日本では、少子化が加速するとともに、育児に関する考え方や価値観にも変化が生じている。本尺度は、子育て期にある者の支援を行う際に使用することによって、養育者の現状把握や支援の成果の評価に活用することが可能であること、さらに、子育て期にある養育者が自身のエンパワメントの状況を可視化することが可能であり、意義があると認められた。

本論文は、日本看護科学学会誌に採択され43巻に掲載予定であり、研究成果を広く周知する機会となり、活用が期待される。

## 6. 研究倫理の遵守

研究の実施にあたっては、研究倫理委員会の審査を受け、研究計画の立案、研究方法、研究の遂行にあたっての研究対象者への倫理的配慮、研究成果の発表、データの保管などについて、適切な倫理的配慮がなされていた。

## 7. 論文審査会及び公聴会（論文審査及び最終試験）

審査会及び公聴会においては、エンパワメントの概念、研究の第1～2段階における内容妥当性の検証方法、0～3歳を対象とした理由、基準関連妥当性に使用した尺度の選択理由、研究対象者の特性と本尺度との関連、一般層というとらえ方、類似の尺度との相違点と本研究の新規性について、再テスト法の設定期間、データ収集方法、関連する国内と国外の尺度や研究等の現状の理解と比較、仮説検証、本研究の限界と課題を踏まえた今後の研究の発展性などについて質問がなされた。申請者は、これらの質疑に対して論理的かつ明解に回答していた。

以上のことから、最終試験に合格したと認め、本研究は博士論文に値し、申請者は博士（看護学）の学位に相当する学識と研究能力を有していると判断する。